

梅雨に増える歩行侵入虫
—考え方と防ぎ方例—

新型コロナウイルスの猛威もなかなか止まりませんが、今年もじめじめした梅雨がやってきました。

身の周りでも虫が活発に活動する時期です。この時期にダンゴムシやヤスデ、ムカデなどの侵入に頭を悩ませている皆様の建物の周りの環境はどうでしょうか？花壇や空き地、犬走りなどがあったり、場合によっては建物やコンクリートに隙間や亀裂が生じていたりするかもしれません。

こういうところは虫の大きな発生源や潜伏先（すみか）になりやすいところですが、雨水などが流入すると害虫たちは突然すみかを失ってしまいます。

そうすると害虫は水が来ないところを求めて一斉に避難を始めます。この時、運悪く次のすみかが見つからずに行き場を失った害虫たちが建物の周りで力尽きたり、侵入してきたりするケースをよく見かけます。



これらの虫の対策の中で効果を実感しやすいのは侵入防止対策です。虫の発生源や潜伏先をなくすことは容易にはいきませんが、歩行侵入虫は侵入してくるルートを想像しやすい場合があるので、そこにスポットを当てて考えましょう。



図1：ヤスデの死骸



図2：バグバンパー

例えば直接虫が侵入してくるドアやシャッターの隙間をなくす防虫資材（IGパッキンやブラシ類、パイル等）の取り付け、壁などを這いあがってくるものに対しては、「バグバンパー」（這い上がってくる虫の障害物になるのと同時に、忌避剤も練り込んである商品）の取り付けがおすすめです。

薬剤散布があれば、粉剤や液剤を用いて、建物の周囲にバリアを張るイメージで散布することが効果的です。液剤の「サイベール0.5SC」は殺虫性、忌避性に優れ、粉剤のように風に飛ばされることもないので、潜伏先への注入などもしやすくお勧めです。

その他にも、お客さまの環境に合わせた対策をご提案いたします。お気軽にご相談ください。

今月の

豆知識

身の周りのダンゴムシ、実は外来種！

皆さんの身の周りにもきついているであろう、そして一度は目にしたことがあるはずのダンゴムシ。日本ではダンゴムシの仲間は25種いるとされますが、もっともよく見かける種類は「オカダンゴムシ」です。

このおなじみのオカダンゴムシは明治時代ごろ日本にどこからともなく侵入してきた外来種だといわれ、私たちになじみ深くて、なかなか新参者です。さらにいろいろ不思議な生態も持っています。

「餌は口から食べて、水はお尻から飲む。」ダンゴムシのご先祖様はもともと海にすんでいました。ひっくり返して

おなか側を見てみると、エビの腹のようになっているところがかつてエラだったなごりで、乾燥にはとっても弱いです。水はココを濡らすようにお尻から吸い込みます。

「メスはおなかで子供をかえす。」メスは卵がふ化してしばらく腹で守ります。そして幼体は時期になるとメスの腹から這い出してきます。うっかり子持ちのメスを手に乗せたりすると、その刺激で手の上に子供たちがわらわら出てきて、びっくりさせられることも。

他にも面白い生態がたくさん。とっても身近で、とっても不思議。ちょっと調べてみませんか？



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL 086-241-8080・FAX 086-241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島・高松・松山・金沢